



五行の舞を奉納する巫女

秋の豊作に感謝する大宝八幡宮の秋の大祭が開かれ、神楽殿で十二座神楽が奉納されました。巫女装束に身を包んだ大宝保育園の女児4人が、太鼓、小太鼓、笛の音に合わせて厳かに舞いました。

十二座神楽は市指定文化財で、起源は明らかではありませんが、室町時代の境内図に神楽殿が描かれ、現存の神楽面も江戸期に奉納されたものであることから古い歴史がうかがわれます。

カメラが趣味で写真撮影に訪れたつくば市の60代女性は「子どもからおじいちゃん、おばあちゃんまで伝統を地域で伝えようとしている雰囲気が温かい」と話し、会場にカメラを向けていました。

**大宝八幡宮・十二座神楽奉納 9月15日**  
**厳か伝統の舞**

下妻小学校6年生の青田れもんさんと騰波ノ江小学校5年生の栗野隆也さんが、8月28日に三重県伊勢市で行われた第13回全国小学生学年別柔道大会で入賞し、その報告のため市役所を表敬訪問しました。

青田さんは6年生女子45kg超級で3位、栗野さんは5年生男子45kg超級で8位入賞を果たしました。

現在も下妻優心塾スポーツ少年団に所属し、日々練習に励む両氏。青田さんは「中学校でも柔道を続けて全国優勝したい。一本で勝つ柔道を目指して練習します」。栗野さんは「来年は6年生で全国優勝を目指します。自分の甘さを無くして辛い練習も頑張ります」と次の目標に目を輝かせていました。



全国大会で活躍した青田さん(左)と栗野さん(右)

**市内小学生が柔道の全国大会で活躍**  
**全国小学生学年別柔道大会出場報告 9月6日**



下妻産の新米を試食する来場者

下妻の南の玄関口・やすらぎの里しもつまで、「下妻産新米まつり」が開催されました。地域ブランド米を目指すJA常総ひかりと下妻市担い手育成総合支援協議会が主催しました。

モチモチ食感が特長のミルクキークイーンと、やさしい甘みで食味・香り・粘りのバランスが抜群のコシヒカリの食べ比べ試食会をはじめ、購入者には空クジなしの大抽選会が行われ、2日目の9月18日は雨にもかかわらず市内外から家族連れなどでにぎわいを見せていました。

夫と娘2人の家族4人で埼玉県八潮市から訪れた寺杣直美さんは「去年は水害で新米まつりが開催されず残念だった。下妻産のお米はおいしいので、いつも新米を楽しみにしています」と話が聞けました。

**下妻産の新米、大人気**  
**下妻産新米まつり 9月17・18日**



10月1・2日に沖縄県那覇市で開催される空手の世界大会「空手1プレミアムリーグ2016沖縄大会」への出場が決まった下妻市出身の浅野慧大選手(大正大1年)が稲葉市長を表敬訪問しました。

同大会で男子個人組手-75kg級に出場する浅野選手。世界中の実力ある空手家が顔をそろえる世界大会への出場は、平成27年12月に全日本空手道連盟が主催する全日本大会の団体戦で、茨城県代表として全国3位を果たした活躍が認められたものです。

浅野選手は「自分の持っている技を最後まで出し切り、あきらめずに戦う気持ちを貫きたい」と力強く抱負を語り、稲葉市長は「夢を大きく持って活躍してほしい」と激励しました。

**空手の世界大会で活躍誓う**  
**空手1プレミアムリーグ2016沖縄大会出場**  
**「浅野慧大選手」表敬訪問 8月29日**

**いきいき茨城ゆめ国体2019**  
第74回国民体育大会 翔べ 羽ばたけ そして未来へ

**「いばラッキー」が市内小学校の運動会に登場**

市内の各小学校で運動会が行われた9月17日、茨城国体マスコットキャラクターの「いばラッキー」が下妻小学校、騰波ノ江小学校、宗道小学校、高道祖小学校の運動会に登場。子どもたちを応援したり、一緒に踊ったりして茨城国体をPRしました。

愛らしい表情で子どもたちの人気を集めるいばラッキー。これからも市内イベントなどに登場し、茨城国体や下妻市が会場となるソフトボールやEボートの競技をアピールしていきます。



茨城国体のイメージダンス「そして未来へ」を児童と一緒に踊るいばラッキー(高道祖小学校)

**水と緑のまごころ国体(昭和49年開催)回顧展**



※展示イメージ

平成31年に茨城県で2回目の国民体育大会が開催されることから、「水と緑のまごころ国体(昭和49年開催)回顧展」を開催します。

前回大会の開会式での集団演技や炬火リレー、各競技の様子などなつかしい写真とともに、平成31年に開催する国体の会場図等が展示され、国体について幅広く知ることができます。

- 期間 11月5日(土)～18日(金)の14日間
- 場所 道の駅しもつま・総合案内所(下妻市数須140 ☎0296-30-5294)

問い合わせ 茨城県国体・障害者スポーツ大会局総務企画課 ☎029-301-5402



畳やたいまつ(の)の炎を持った白装束の若者が境内を走り回る(9月14日)

火の粉を浴びると火の災いを退けるといわれる炎の奇祭「タバンカ祭」が9月12日と14日の両日、大宝八幡宮で行われました。

全国でも珍しい火祭りで、境内には市内外からの参拝客やアマチュアカメラマンが集まり、畳やたいまつ(の)の炎を持った白装束の若者が走り回ると、子どもたちは歓声をあげながら逃げ回っていました。

この祭は、約640年前に敷地内で起きた火災を畳と鍋蓋で消し止めたという故事を戯曲化した祭として受け継がれています。

**幻想の火祭り燃ゆる炎**  
**大宝八幡宮・タバンカ祭 9月12・14日**



活躍を誓う握手(右から須藤市議会議員、浅野選手、稲葉市長)